



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	富士食品工業 新社屋	階数	地上4F
建設地	横浜市港北区大豆戸町122-2、137、138-3	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	230 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,160 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年2月24日
敷地面積	1,724 m <sup>2</sup>	作成者	立石直敬
建築面積	798 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,891 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 設計コンセプト「みえる、きこえる、つたわる」を具現化するため、各階の中央に職員用の交流拠点を設けた計画。交流拠点はエレベーター、階段、吹抜け、交流ラウンジ等で構成され、社屋全体の「見る・見られる」関係を作り出し、社員のコミュニケーションを促進させるワークスペースを提案。		
<b>Q1 室内環境</b> 音環境に配慮した計画。ハイサイドライトから昼光を取り入れ、明るい吹抜け空間とした。外断熱の高断熱外皮を採用し、開口部を抑制することで外皮性能を高めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 建物中央の交流空間に加えて、休憩や打ち合わせスペースなどのサポート空間を設けた。さらにキッチンやミニコンビを備えたりフレッシュコーナーやリフレッシュテラスを設けることで、社員のホスピタリティを充実し、社員のパフォーマンスを最大限発揮できる執務環境を計画。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の室外環境は前面道路に面して積極的な緑化を図り、快適な歩行空間を計画。また、樹木を適切に配置することで、木陰空間を創出します。
<b>LR1 エネルギー</b> 外断熱の高断熱外皮を採用。開口面積の抑制による建物外皮の熱負荷を抑制。自然換気システムの採用・ハイサイドライトからの自然採光を取り入れた計画。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> VOC放散量が少ない建材を全面的に採用	<b>LR3 敷地外環境</b> 条例上の駐車台数に加えて、荷捌き用の駐車場を計画し、建物内で安全に物資を搬入できる計画とし、周辺の交通負荷を抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい



### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

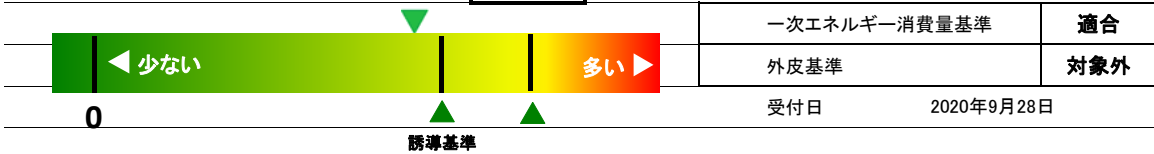
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **富士食品工業 新社屋**

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 3**

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **26** %削減



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①外断熱の採用・開口面積の抑制による建物外皮の熱負荷を抑制
- ②自然換気システムの導入やハイサイドライトによる自然採光の確保といった自然エネルギーを積極的に利用
- ③設備システムの高効率化(高効率機器の採用、変風量抑制、人感センサー発停、LED照明の採用、トッランナー変圧器の採用)
- ④用途別の空調・換気システムによる効率的運用

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

##### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑨外断熱の高断熱外皮を採用 ⑩ハイサイドライトによる明るい吹抜け空間・壁のない見通しの良い執務空間
- ⑪空気質環境 VOC放散量が少ない建材を全面的に採用

##### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫建物の中心から交流⇒執務⇒収納といった同心円状のワンルーム型オフィスとし、明快で機能的な施設構成とした。
- ⑬建物中央に計画した吹抜け空間を中心に交流スペースを設けることで、コミュニケーションの促進・知的生産性の向上を図った。

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

- ⑭敷地内に樹木を植え、日影をつくる。

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑮建物の外周部に剛強な耐震壁を配置し、水平力に対する剛性、強度を高めている。
- ⑯コンクリートの設計基準強度Fc24以上を採用し、JASS5規定の供用期間の級「標準(供用期間約65年)」を確保
- ⑰杭基礎の杭頭部には鋼管コンクリート杭を採用し、基礎の耐力、靱性を確保している。

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

- ⑱前面道路に面した外構は積極的に緑化を図った。
- ⑲接道に面して安全な車両出入り口とし安全性を確保
- ⑲前面道路に面して樹木を植え、豊かな歩行空間とした。
- ⑳周辺の住宅に配慮して、必要最低限の開口部とした。

##### 太陽光発電などの導入

##### 環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

##### エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7

富士食品工業 新社屋

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>					-		-			<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-			<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.8</b>	0.15	-	-			<b>3.8</b>
1.1 騒音				4.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-			-
1 開口部遮音性能				5.0	0.60	-	-			-
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-			-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-			-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-			-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.0</b>	0.35	-	-			<b>3.0</b>
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-			-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-			-
3 ソーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.2</b>	0.25	-	-			<b>3.2</b>
3.1 昼光利用				3.4	0.30	-	-			-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	-	-			-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-			-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	4.0	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-			-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	-	-			-
3.3 照度				4.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>3.5</b>	0.25	-	-			<b>3.5</b>
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-			-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気環境	4.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-			-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-			-
1 CO <sub>2</sub> の監視		快適・働きやすさ	⑪空気環境	3.0	1.00	-	-			-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気環境	-	-	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-			<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40	-	-			-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.33	-	-			-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.33	-	-			-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-			-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.33	-	-			-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-			-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30	-	-			<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1 耐震性		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2 免震・制振性能		防災	⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-			-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-			-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-			-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-			-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-			-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-			<b>3.4</b>
3.1 空間のゆとり				3.4	0.30	-	-			-
1 階高のゆとり				3.0	0.60	-	-			-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-			-
1 空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-			-
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.7

富士食品工業 新社屋

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	3.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-			5.0
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-			3.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	3.6	0.50	-	-			3.6
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-			3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-			-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
	集合住宅の評価			-	-	-	-			-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			2.8
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-			3.4
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-			-
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-			-
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-			-
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-			2.5
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.11	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.22	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.22	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.22	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.22	-	-			-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-			-
	1 消火剤			-	-	-	-			-
	2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-			-
	3 冷媒			3.0	0.50	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.0
1 地球温暖化への配慮				3.7	0.33	-	-			3.7
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-			2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-			-
	1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-			-
	2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-			-
	3 交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-			-
	4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-			-
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
	1 騒音			3.0	0.33	-	-			-
	2 振動			3.0	0.33	-	-			-
	3 悪臭			3.0	0.33	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
	1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-			-
	2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-			-
	3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-			-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-			-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										-
<事務用途>										-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	5.0	-	-	-			-
<住宅用途>										-
健康と安心										-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-			-